地　域　再　生　計　画

１　地域再生計画の名称

安全安心で魅力のあるまち　岡谷

２　地域再生計画の作成主体の名称

長野県、岡谷市

３　地域再生計画の区域

岡谷市の全域

４　地域再生計画の目標

岡谷市は、長野県のほぼ中央に位置し、南東は諏訪湖、西北は塩嶺王城県立公園、また遠くには富士山・八ヶ岳を望み、湖と四季を彩る山々に囲まれた風光明媚な都市である。大正から昭和初期には製糸業が栄え、「シルク岡谷」として世界にその名を馳せ、日本の産業の近代化に大きく貢献した。戦後は「東洋のスイス」として、精密工業、電子工業を中心にハイテク産業へと変身を遂げ、スマートデバイスの世界的供給基地を目指して発展を続けている。さらに、今日まで培ってきた精密加工技術、光技術、超精密組立技術等を活かし、開発提案型の産業形態へと転換を図り、様々な研究機関や大学等と連携し、“Made in Okaya”の確立を目指している。

また、当市が生んだ童画家、武井武雄先生の優しく幻想的な童画作品を展示しているイルフ童画館を持つ「童画のまち」、寒の土用丑の日の発祥の地である「うなぎのまち」、８月に行われる岡谷太鼓祭りでの豪快な３００人揃い打ちによる「太鼓のまち」、市民の憩いの場である岡谷湖畔公園など、岡谷市の自然や文化を生かした、特色ある観光資源を全国にＰＲし、観光の振興を図っている。

そうした中、平成１８年７月豪雨により、市内各地で土石流が発生し、市民の生命、財産に甚大な被害を及ぼした。この災害を機に地域住民の防災・減災に対する意識やニーズが高まり、発災から今日までハード及びソフト両面からの防災政策の推進を図っている。

この地域は諏訪地方と伊那や松本地方を結ぶ県道が、重要な幹線交通となっている。しかし、住宅地のすぐ裏に山間地を有するため、狭隘で急勾配な道路が生活道路として使用され、車のすれ違いや歩行にも支障をきたしている状況であり、交通の主体は県道に頼らざるを得ない状況である。そのため、他に迂回路はなく、慢性的な交通渋滞が引き起こされているとともに、県道沿いには保育園や小中学校があることから、安全で安心な道路整備が強く求められているところである。

一方、山間地においては、幹線道路と山間地を結ぶ道路整備が遅れている状況にある。今日までに市道と林道の一体整備を実施し、地域間のネットワークを強化しているが、さらなる整備が求められている。また、急峻な地形であるため、放置される森林が多く、地域の高齢化からますます荒廃化する森林も多くなっており、悪循環を生む原因となっている。

以上のことから、今回の計画において、県道の迂回路となる市街地、住宅地の市道や山間地の林道を一体的に整備し地域間ネットワーク網を構築することで、県道や市街地の渋滞緩和や緊急時のバイパス道路を確保するとともに、切捨て間伐から搬出間伐への転換を促進し、集材等作業の軽減やコストの削減を進め、間伐材を有効活用した地域林業の活性化を図る。また、地域間の交流や森林の保全に向けた環境整備、災害の抑制など、森林の持つ本来の多面的な機能の効果が期待できる。住民にとって安全で安心な住みやすい地域を形成するとともに、諏訪湖や天竜川に面した地域の特色や自然を活かした観光の発展を図る。

そのほか、関連事業である「岡谷市民病院建設事業」「新消防庁舎建設事業」などハードの施設整備や「まちづくり活性化事業」「企業誘致推進事業」など住民と行政が一体となって進めているソフト事業により、住民が地域への愛着を持って生活する活力ある地域づくりを推進し、諏訪湖や天竜川に面した地域の特色や自然を生かした観光の発展を図り、安全で安心して住むことができる魅力あるまちづくりを目標とする。

（目標１）迂回路確保（地域間ネットワーク網の構築）
災害時孤立集落の解消　［平成２４年度］４集落 ⇒［平成３１年度］０集落
（目標２）森林の整備（搬出間伐面積の増加）
年間搬出間伐面積　　［平成２４年度］１００ha ⇒［平成３１年度］１３０ha
（目標３）安全通行の確保（林道高尾山線の危険箇所の改善）
林道危険箇所　　［平成２４年度］５箇所 ⇒［平成２９年度］０箇所

５　地域再生を図るために行う事業
（５－１）全体の概要

県道の岡谷茅野線と楢川岡谷線は、諏訪地方と隣接する地域を結ぶ主要な道路であり、その県道の緊急時の迂回路確保のため市道湊５号線、湊１１８号線、１１４号線（間下東街道線）、１１５号線（下横町線）、１７号線（鶴峯天白線）を整備する。また、岡谷湖畔公園ジョギングロードに隣接する市道長地１号線の整備を行う。そのほか、岡谷・川岸地区を相互につなぐ林道高尾山線を整備する。

以上のことにより、慢性的な渋滞の解消、円滑な自動車交通と地域住民の安全

な通行の確保による、安全安心な魅力あるまちづくりを推進し、観光と自然とを結びつけた誘客により、地域振興を活発化させる。また、林業においては、道路網の整備により搬出間伐を促進させるとともに、植樹などによる地域住民の交流や森林としての機能保全と環境整備を行い、災害に強い森づくりや森林保全を推進し、地域住民の活力と地域に対する愛着の醸成を図る。

（５－２）特定政策課題に関する事項

該当なし

（５－３）法第５章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。

整備箇所等は、別添の整備箇所を示した図面による。

・市道湊５号線　：昭和６１年３月３１日市道認定
・市道湊１１８号線　：昭和６１年３月３１日市道認定
・市道１１４号線（間下東街道線）：昭和６１年３月３１日市道認定
・市道１１５号線（下横町線）　：昭和６１年３月３１日市道認定
・市道１７号線（鶴峯天白線）　：昭和６１年３月３１日市道認定
・市道長地１号線　：昭和６１年３月３１日市道認定
・林道高尾山線　：森林法による伊那谷地域森林計画（平成２４年４月樹立）に路線を記載

［事業期間］

市道（平成２５～３０年度）

林道（平成２６～２８年度）

［整備量及び事業費］

市道　３．７４ｋｍ、林道　２．０ｋｍ

総事業費　７２５，８００千円（内交付金　３５２，９００千円）

市道　６６５，８００千円（内交付金　３３２，９００千円）

林道　６０，０００千円（内交付金　２０，０００千円）

（５－４）その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか「安全安心で魅力のあるまちづくり」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

（５－４－１）地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

（５－４－２）支援措置によらない独自の取組

・岡谷市民病院建設事業

住民の命と健康を守り、求められる幅広い医療の提供に対応できる総合病院として、より良い医療の提供ができる環境を整え、安心で思いやりのある生活と地域活力の向上を図る。

・新消防庁舎建設事業

あらゆる災害や緊急事態に備えた消防施設として、災害応急対策の拠点機能を有するとともに、大規模震災時等には、住民の一時避難場所として受け入れ可能な庁舎の建設を行う。

・まちづくり活性化事業

岡谷市独自の特色を生かした取り組みである、童画のまち・うなぎのまち・太鼓のまちによるまちづくりを推進し、まちなかの賑わいや地域の活性化を図る。

・企業誘致推進事業

企業誘致を推進し、働く場所を確保することで、定住人口の増加及び地域経済の活性化を図る。

６　計画期間

平成２５年度～３０年度

７　目標の達成状況にかかる評価に関する事項

（７－１）目標の達成状況にかかる評価の手法

地域再生計画の目標については、計画終了後に有識者等による評価委員会を組織し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行う。

（７－２）目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	平成２４年度（基準年度）	最終目標
目標１ 災害時孤立集落の解消	４集落	０集落
目標２ 年間搬出間伐面積	１００ha	１３０ha
目標３ 林道危険箇所	５箇所	０箇所

（７－３）目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

４に示す地域再生計画の目標の達成状況を始め事後評価の内容を、速やかにインターネット（岡谷市ホームページ）により公表する。

８　構造改革特別区域計画に関する事項

該当なし

９　中心市街地活性化基本計画に関する事項

該当なし

10　産業集積形成等基本計画に関する事項

該当なし

添付資料の一覧（目次）

（１）　区域の図面

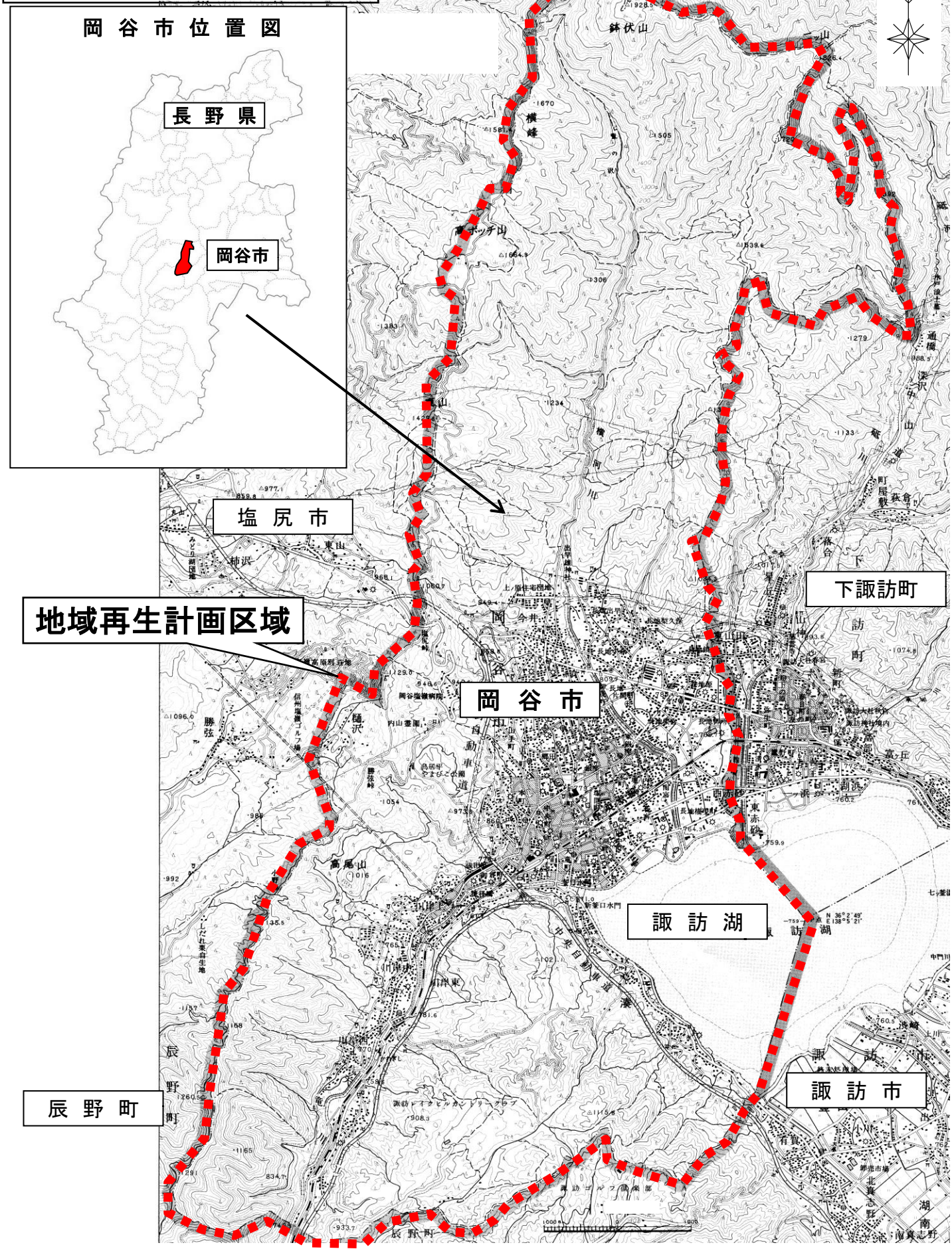
（２）　整備する施設の整備区域又は整備箇所を示した図面

（３）　地域再生計画の工程表及びその内容を説明した文書

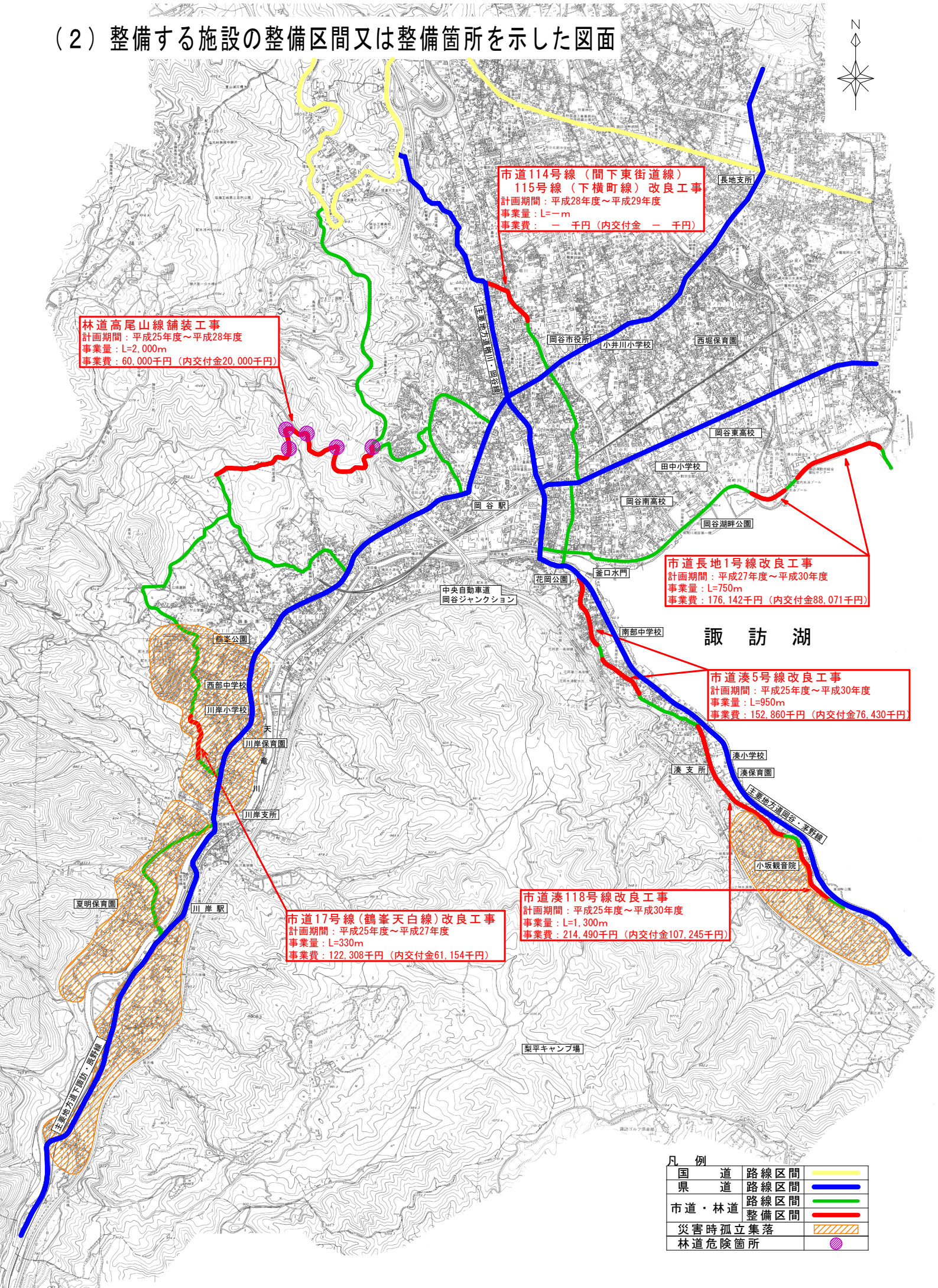
（４）　計画の全体像を示すイメージ図

（５）　その他

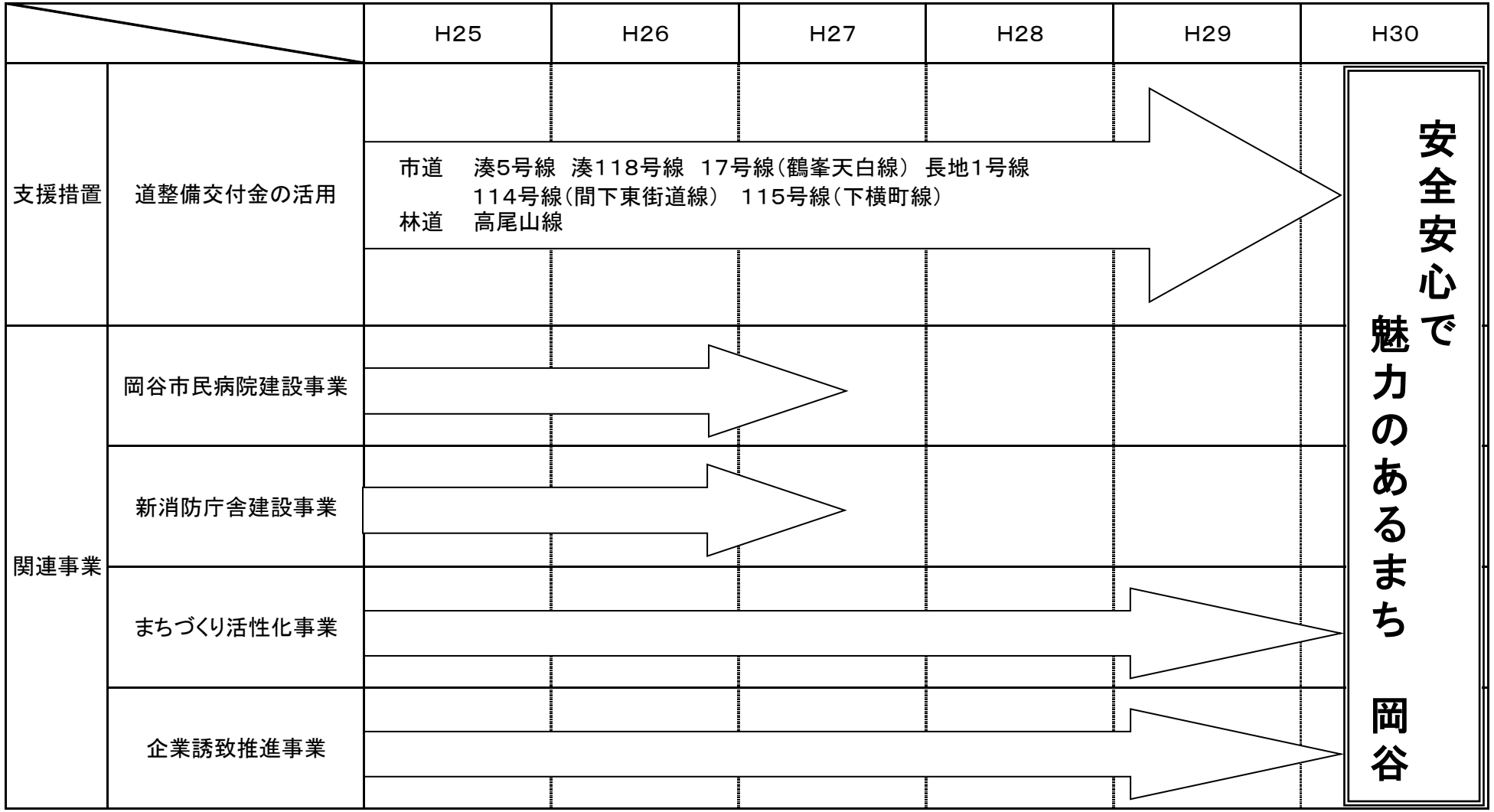
（1）区域の図面



（２）整備する施設の整備区間又は整備箇所を示した図面



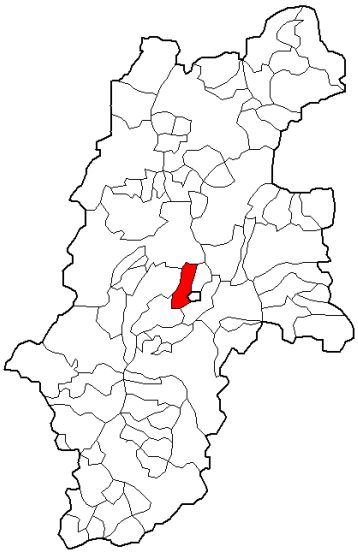
（3）地域再生計画の工程表及びその内容を説明した文書



（4）計画の全体像を示すイメージ図

安全安心で魅力のあるまち　岡谷

都道府県名	長野県
作成主体名	長野県、岡谷市
区域の範囲	岡谷市の全域



地域再生計画の概要

県道の岡谷茅野線と楢川岡谷線は、諏訪地方と隣接する地域を結ぶ主要な道路であり、その県道に接続する市道の整備を行う。また、岡谷・川岸地区を相互につなぐ林道高尾山線を整備する。

以上の整備を実施することで、地域間ネットワーク網を構築し、幹線道路等の渋滞緩和や災害時のバイパス道路を確保するとともに、切捨て間伐から搬出間伐へ転換を図り、安全安心な魅力あるまちづくりを推進する。

適用される支援措置

・道整備交付金【Ａ３００１】

平成１８年７月豪雨災害時に土石流被害を受けた湊地区の航空写真

林道整備に伴い面積拡大が期待される搬出間伐イメージ

安全安心な魅力のあるまち　岡谷【長野県・岡谷市】

計画概要

地域間ネットワーク網を整備することで、幹線道路等の渋滞緩和や災害時のバイパス道路を確保するとともに、切捨て間伐から搬出間伐へ転換し、森林整備事業の促進を図る。

地域再生計画の区域　長野県岡谷市の全域

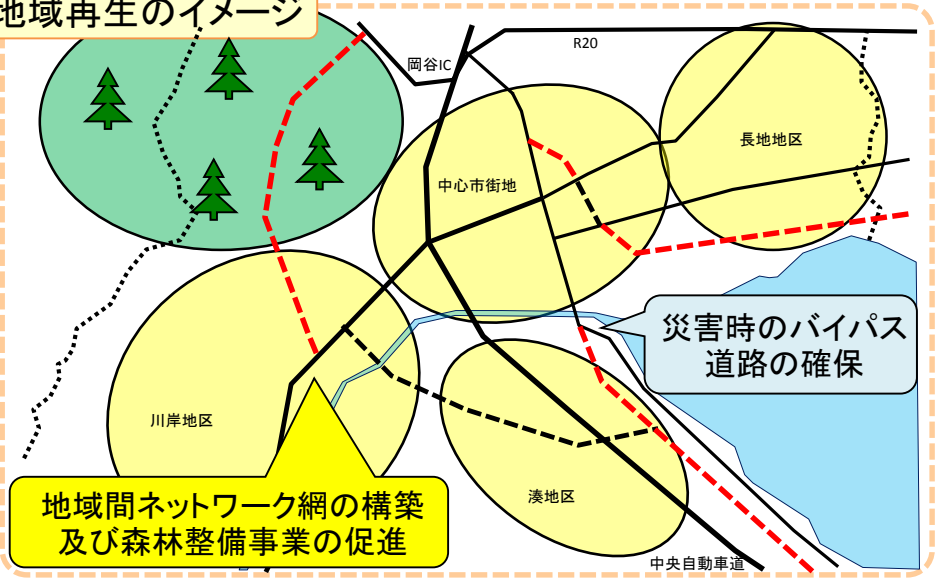
計画期間　平成25年度～平成30年度

地域再生計画の目標

項　目	現　状	目　標
災害時孤立集落の解消	4集落	0集落
年間搬出間伐面積の増加	100ha	130ha
林道危険箇所	5箇所	0箇所

※最終年度に事後評価検討を実施し、目標の達成状況を確認。

地域再生のイメージ



目標達成のために行う事業

＜道整備交付金＞

市道：3.74km、林道：2.0km

総事業費　725.8百万円（うち国費　352.9百万円）

市道　665.8百万円（うち国費　332.9百万円）

林道　60百万円（うち国費　20百万円）

＜その他の事業＞

・岡谷市民病院建設事業、新消防庁舎建設事業
まちづくり活性化事業、企業誘致推進事業

交付金の必要性及び効果

・地域間ネットワーク網の構築及び森林整備事業の促進を図る上で、市道17号線と林道高尾山線を一体的に整備する必要がある。

・市道整備によりバイパス道路を確保することで、災害時の孤立集落の解消が図られる。

「地域再生基盤強化交付金」を活用した地域再生計画（長野県岡谷市）

安全安心で魅力のあるまち　岡谷

作成主体	長野県、岡谷市
区　域	岡谷市の全域
計画期間	H25～30年度

◆背景
・平成18年7月豪雨により、市民の生命、財産に甚大な被害が及んだことから、地域住民の防災・減災に対する意識やニーズが高まった。
・幹線道路と山間地を結ぶ道路整備が遅れている状況に加え、急峻な地形であるため、放置される森林が多い。

◆目標
・市道及び林道を一体的に整備し、地域間ネットワーク網を構築することで、緊急時におけるバイパス道路を確保するとともに、切捨間伐から搬出間伐への転換を促進し、間伐材を有効利用した地域林業の活性化を図る。
【数値目標】
・災害時孤立集落の解消
　4集落（H24）　→　0集落（H31）
・森林の整備
　100ha（H24）→　130ha（H31）

平成18年度7月豪雨災害時に
土石流災害を受けた湊地区

林道整備に伴い面積拡大が
期待される搬出間伐イメージ

◆取組
・市道及び林道の整備
　市道　　道路延長　3.74km
　林道　　道路延長　2.00km
【道整備交付金（内閣府）】
　総事業費　725.8百万円（うち国費　352.9百万円）